

令和5年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	83		学校名	県立北海道第一高等学校				課程	全日制		学校長名	福田 崇				
副校長名					教頭名	木村 功				事務室長名	柴崎 聖司					
教職員数	教諭	53	常勤講師	4	養護助教諭	1	非常勤講師	4	実習教諭	1	事務職員	4	技術職員等	4	計	71
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計クラス数				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	19				
	普通科		123	117	118	115	146	134			387				366	
		240		233		280				753						

2 目指す学校像

学校生活全体を通して、さまざまな視点から生徒の好き、得意、やりたい、なりたいを引き起こし、そこから生まれる主体的な学びを支援、正解のない未来に人生を主体的に切り拓ける人間形成に資する。

3 三つの方針(スクール・ポリシー)

「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	正解のない未来に人生を主体的に切り拓ける人間形成
「学びの方針」 (カリキュラム・ポリシー)	単位制の授業はじめ、学校生活全体で、さまざまな視点から生徒の好き、得意、やりたい、なりたいを引き起こし、生徒の興味関心を主体的な深い学びに導く
「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	好奇心旺盛で、自分で考え、課題を発見し、解決のために多様な人々と協力しあえる生徒

4 現状分析と課題(数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習および進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の主体的な学びを引き起こすための授業改善を念頭にした研修や研究を進めている過程にある。 課外や添削指導の指導体制を常に見直し、成績の底上げを行っている。 生徒一人ひとりの夢に寄り添い生徒と教員の共同プロジェクトとしての進路目標の達成を図っている。 ICT教育環境を整え、授業や学校行事への活用を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT活用はじめ学習意欲を高める創意工夫をし、主体的な自学自習、発展学習につなげる。 大学進学にとどまらないその先のキャリアを見据えた進路指導を行う。
基本的生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通した継続的な個別面談を通して生徒理解を図り、基本的生活習慣の確立に努めている。 社会人として必要な考え方やマナーを身に付けさせるため、18歳成年への意識改革を行っている。 登校指導を通して、遅刻数の減少を図っている。 精神的なケアを必要とする生徒に対し、校内を組織化し外部機関との連携を図りながら対応に当たっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活を中心に家庭と連携し、「海高スタンダード」としての意識を持つことで基本的生活習慣を確立させる。 メンタルヘルスクエアを充実させるため、支援に対する理解を促進する。
特別活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会や各種委員会活動を通して生徒の自主性を育てている。 運動部、文化部ともに活発であり、部活動加入率は90%以上に達している。 常総市との連携協力を総合的な探究の時間や部活動を中心に積極的に図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> HR活動・生徒会活動・各種委員会を充実させ、生徒のさらなる主体性発揮の場を創出する。
保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 開かれた学校づくりのため、広報活動の工夫を図り保護者や社会に向け発信している。 授業公開、学校説明会および定期的なホームページの更新を行い、本校教育の理解の促進を図っている。 保護者は本校教育の理解があり、積極的な学校行事への参加や協力がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 広報活動とPR発信をさらにすすめ、本校教育活動への理解と注目を創り出す。 各種コンテストへの参加など本校生徒の活躍の場を見いだし、支援する。
働き方改革について	<ul style="list-style-type: none"> 各自が定時退勤日や年休・時間休を活用するなど出退勤時間の工夫を行い、時間外勤務の削減を行う必要がある。 外部の企業や指導員の協力を積極的に取り入れながら、学校負担の軽減を目指す必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の負担軽減。 適性検査、学力検査にまつわる負担の軽減。

5 中期的目標

生徒のやりたい、なりたいが、総合的な探究の時間や教科の授業等を通して絶えず発現し、主体的なプロジェクトとして校内に林立、教員が直接、あるいは専門家をアサインしその学びを支援、その成果が進路にも人生にもつながっていくスーパークリエイティブハイスクール

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
学習指導 (教育課程)	① 生徒の主体性を育むことを第一に、学校生活全体で機会の創出を行う。
	② ICT活用やグループワーク等、生徒の主体的な学びにつながる創意工夫を行い、結果、生徒が主人公である授業を常態とする。
	③ 新設する教育ベンチャー5社と共同開発した海高式探究プログラムの整備や、復活する語学研修旅行の拡充による横断的な学びを進める。
進路指導 キャリア教育	④ 生徒が主体的に人生を切り拓くために最適な進路指導を生徒との共同プロジェクトとして行う。
	⑤ 偏差値、国公立など従来の物差しに限らず、多様な情報と社会的見地を常に更新し、総合的な進路指導を行う。
	⑥ 大学受験のみならずその後の社会人としての生き方をイメージできるキャリア教育を行う。
生徒指導	⑦ 海高生としてふさわしい身だしなみ、言動を自ら考え、実行を促す生徒指導を行う。
特別活動 キャリア・パスポートの活用	⑧ 生徒主体の、特に観る人の存在を意識した行事運営をサポートする。
	⑨ Classiなどのコミュニケーションツールを活用し、生徒のキャリア形成をサポートする。
教育環境整備	⑩ 教室のデザイン変更試行とその分析をして、有効な方向性と活用法を議論する。
地域との連携 (保護者、地域住民等)	⑪ 常総市アグリサイエンスバレーと探究プログラム、常総市と本田技研によるAI街づくり協定と探究活動による連携を強化する。
	⑫ 文化部による地域の伝統芸能取材、伝統行事の定期戦実施、ボランティア活動で地域との連携を強化する。
保健管理 安全管理	⑬ スクールカウンセラーの配置、いじめ対策委員会の定期的な開催など常に情報を把握することで生徒理解と問題の早期発見解決に努める。
	⑭ 防災訓練、交通安全指導など各種講習の実施による生徒の危機管理意識づくりと、危機管理マニュアルの遵守と見直しにより学校安全を確保する。
研修 (資質向上の取組)	⑮ トップティーチャー模擬授業、コーチング研修、ダイバーシティ研修などオリジナルで必要なものをハイレベルに提供する。
	⑯ 先進校視察もより深い視察が可能なプログラムを先方と調整して行う。
情報提供 (広報、生徒募集)	⑰ 学校説明会、学校公開日に加え、塾などへの学校説明の定期的実施、ハイクオリティなPVの制作など広報を充実する。
	⑱ 課外イベントの開催、総合的な探究の時間の話題性をもとに広くマスメディアにもアプローチする。
コンプライアンス 働き方改革	⑲ コンプライアンス違反をゼロにする。
	⑳ 臨機応変な働き方の導入により教職員の負担を軽減する。
授業改善について	㉑ 第2回授業満足度調査において第1回のスコア+5%の達成を目指す。